

事務事業評価表 平成22年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実
 施策 高齢者福祉の充実
 基本事業 地域交流と社会参加の促進

事業名 **長寿祝金**

[0221]

部名	健康福祉部	事業開始年度	昭和57年度	実施計画事業認定	非対象
課名	介護保険課	事業終了年度	平成21年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>100歳に到達する市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>長寿を祝い、社会に貢献した労をねぎらうことにより、生きがいとしてもらう。さらに市民への敬老意識の啓発を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>100歳の年齢到達者に対し長寿祝金(5万円)を贈呈する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	100歳に到達する市民数	人	16	9	13	24
対象指標2						
活動指標1	支給総額	千円	600	450	650	0
活動指標2						
成果指標1	祝金贈呈者数	人	12	9	13	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	600	450	650	0
正職員人件費(B)		千円	419	418	415	0
総事業費(A) + (B)		千円	1,019	868	1,065	0

費用内訳	
21年度	報償費 650千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

高齢者の生きがいづくり、市民への敬老意識啓発を目的として市が祝うことは妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

上位の目的は、「地域交流と社会参加の促進」であるが、対象者は毎年十数名であり、高齢者全体の0.06%にすぎないことから、上位の基本事業への貢献度は低い。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

100歳到達時に一度だけ5万円を支給する当該事業は、本人の生活実態にかかわらず一律に支給する事業であるため、労をねぎらい生きがいとしてもらう成果も出づらく、一方で生活支援としての効果も薄い。また、市民への敬老意識の啓発においても、一過性のイベントにとどまっている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

高齢者の生活実態は多様化、複雑化しており、年齢のみに着目した一時的給付金は、成果の向上余地が小さいと言える。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

コストを落とす方法は、祝金（5万円）の減額しかないが、現状においても事業効果が上がっていないと考えられることから、祝金の減額は効果がない。